

RSM を使用した Catalyst 5000 トークンリング およびイーサネットVLAN 設定

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景理論](#)

[設定](#)

[SRBおよびIP 用マルチリング用のRSMでのトークンリングの設定](#)

[同じスイッチ上のイーサネットとトークンリングVLAN間の通信](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Catalyst 5000 およびルート スイッチ モジュール (RSM) のトークン リング スイッチングの設定方法について説明します。特に、このドキュメントでは、ソースルートブリッジング環境で IP をルーティングさせるための、RSM を備えた Catalyst 5000 の設定、およびその手順について説明します。また、RSM を介したイーサネット VLAN とトークン リング VLAN 間の通信の設定例を紹介します。このドキュメントでは、最も頻繁に使用されるいくつかの show コマンドについても説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- トークンリングブリッジリレー機能(TrBRF)およびトークンリングコンセントレータリレー機能(TrCRF)を含む、トークンリングスイッチングの概念。
- シスコのルータとスイッチの設定と管理方法

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- スーパーバイザエンジンIIIソフトウェアバージョン4.5(6)を搭載したCatalyst 5505。次のコン

ポーネントがインストールされています。Cisco IOS®ソフトウェアリリース12.1(2)とIBMフイーチャセットを搭載したルートスイッチモジュールソフトウェアバージョン4.5(6)が稼働するイーサネットブレードソフトウェアバージョン3.3(2)が稼働するトークンリングブレード

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

背景理論

1つのVLANが1つの物理イーサネットセグメント（ブロードキャストドメインなど）を実質的に表すイーサネットVLANとは異なり、トークンリングスイッチングではブロードキャストドメインごとに複数のVLANが使用されます。中心となる概念は、トークンリングブリッジリレー機能（TrBRF）VLANです。これは、トークンリングネットワークのブリッジング機能を表すVLANです。このTrBRFまたはブリッジでは、1つ以上のトークンリングコンセントレータリレー機能（TrCRF）VLANを設定します。これらは、トークンリングネットワークの物理リングに似ています。定義の一部として、それぞれに一意のリング番号を割り当てる必要があります。

異なるTrCRF上のエンドデバイスは、TrBRFのブリッジング機能を介して、外部ブリッジやルータなしで相互に通信できます。1台のスイッチに複数のTrBRF VLANを設定し、それぞれに関連するTrCRF VLANを設定できます。ただし、TrBRF間の通信には、ルータなどの外部デバイスが必要です。

TrBRF VLANは、次の2つの方法で設定できます。トランスペアレントブリッジまたはソースルートブリッジとして使用できます。一般的なトークンリングスイッチは、すでにソースルートブリッジング（SRB）を使用しているIBMの店舗に設置されているため、TrBRFの最も一般的な設定はソースルートブリッジです。

イーサネットVLANなどのトークンリングVLANでは、ループを回避するためにスパニングツリーアルゴリズムを実行する必要があります。ただし、イーサネットVLANとは異なり、TrBRFレベルとTrCRFレベルの2つのインスタンスを実行する必要があります。

TrBRFがトランスペアレントブリッジ（**mode srt**）として機能している場合（従属TrCRFを設定するときに**mode srt**）、TrBRFレベル（**stp ieee**）でスパニングツリープロトコルとしてIEEEを実行するように設定する必要があります。

TrBRFがソースルートブリッジ（**mode srb**）として機能している場合（依存するTrCRFを設定するときに**mode srb**）、TrBRFレベル（**ibm stp**）でスパニングツリープロトコルとしてIBMを実行するように設定する必要があります。

TrCRFレベルで動作するスパニングツリープロトコルは、ブリッジモードに基づいて自動的に選択されます。ブリッジモードがSRB（たとえば、TrBRFがIBMスパニングツリープロトコルを実行している）の場合、IEEEスパニングツリープロトコルはTrCRFレベルで実行されます。ブリッジモードがトランスペアレントブリッジング（T）の場合（TrBRFがすでにIEEEスパニングツリープロトコルを実行している場合など）、TrCRFレベルで実行されるスパニングツリープロトコルはCISCOです。

TrBRFとTrCRFの概念の詳細については、「トークンリングスイッチングの概念」を[参照してください](#)。

設定

このセクションでは、このドキュメントで説明する機能を設定するために必要な情報を提供しています。

注：このドキュメントで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#) ([登録ユーザ専用](#)) を使用してください。

トークンリングVLANを設定する前に、ドメイン内のすべてのトークンリングスイッチでVLAN Trunking Protocol(VTP)V2を実行する必要があります。既存のVTPドメインの中断を回避するには、新しく追加したスイッチをトランスペアレントモードまたはクライアントモードとして設定します。

```
set vtp domain cisco mode transparent v2 enable
```

VTPの詳細については、『[VTPの設定](#)』を参照してください。デフォルトモードはserverです。

次に、スイッチでTrBRF VLANまたはVLANを設定します。この例では、最も一般的なタイプの設定であるため、2つの異なるTrBRFがソースルートブリッジとして設定されています。

1. スwitchにTrBRF VLANを作成します。これは、接続されたエンドデバイスが割り当てられたポートを持つTrCRF VLANの親です。注：ソースルートブリッジングを実行しているため、スパニングツリープロトコルはibmに設定されます。

```
set vlan 100 type trbrf name test_brf bridge 0xf stp ibm
set vlan 200 type trbrf name test_brf2 bridge 0xf stp ibm
```

2. TrCRF VLANを作成します。注：モードはSRBに設定され、リング番号は次の例に示すように16進数または10進数で入力できます。ただし、設定を表示すると、スイッチでは16進数で表示されます。

```
set vlan 101 type trcrf name test_crf101 ring 0x64 parent 100 mode srb
!--- All rings in hexadecimal. set vlan 102 type trcrf name test_crf102 ring 0x65 parent
100 mode srb
set vlan 103 type trcrf name test_crf103 ring 0x66 parent 100 mode srb

set vlan 201 type trcrf name test_crf201 decring 201 parent 200 mode srb
!--- All rings in decimal. set vlan 202 type trcrf name test_crf202 decring 202 parent 200
mode srb
set vlan 203 type trcrf name test_crf203 decring 203 parent 200 mode srb
```

3. VLANをスイッチネットワーク内のポートに割り当てます。イーサネットポートを割り当てると同じ方法で、ポートをCRF VLANに割り当てます。たとえば、ポート8/1-4をVLAN 101(リング番号100(0x64))に割り当てます。すべてのトークンリングポートのデフォルトVLANは1003 (すべてのイーサネットポートのデフォルトVLAN 1と同じ) であるため、VLAN 1003も変更されます。

```
ptera-sup (enable) set vlan 101 8/1-4
```

```
VLAN 101 modified.
VLAN 1003 modified.
VLAN Mod/Ports
-----
101 8/1-4

ptera-sup (enable) set vlan 201 8/5-8
```

```
VLAN 201 modified.
VLAN 210 modified.
VLAN Mod/Ports
-----
201 5/1
    8/5-8
```

必要なすべてのトークンリングポートをTrCRF VLANに割り当てると、スイッチの設定が完了します。同じVLANのTrCRF内のデバイスは、それらの間でルートブリッジをソースできます。

IP接続の場合、これはブリッジ環境であるため、すべてのエンドデバイスが同じIPネットワークに属している必要があります。ただし、TrBRFはソースルートブリッジとして機能するため、異なるTrCRFに接続されたルータでは、ルーティング情報フィールド(RIF)をキャッシュして使用するために、マルチリングオプションが必要です。

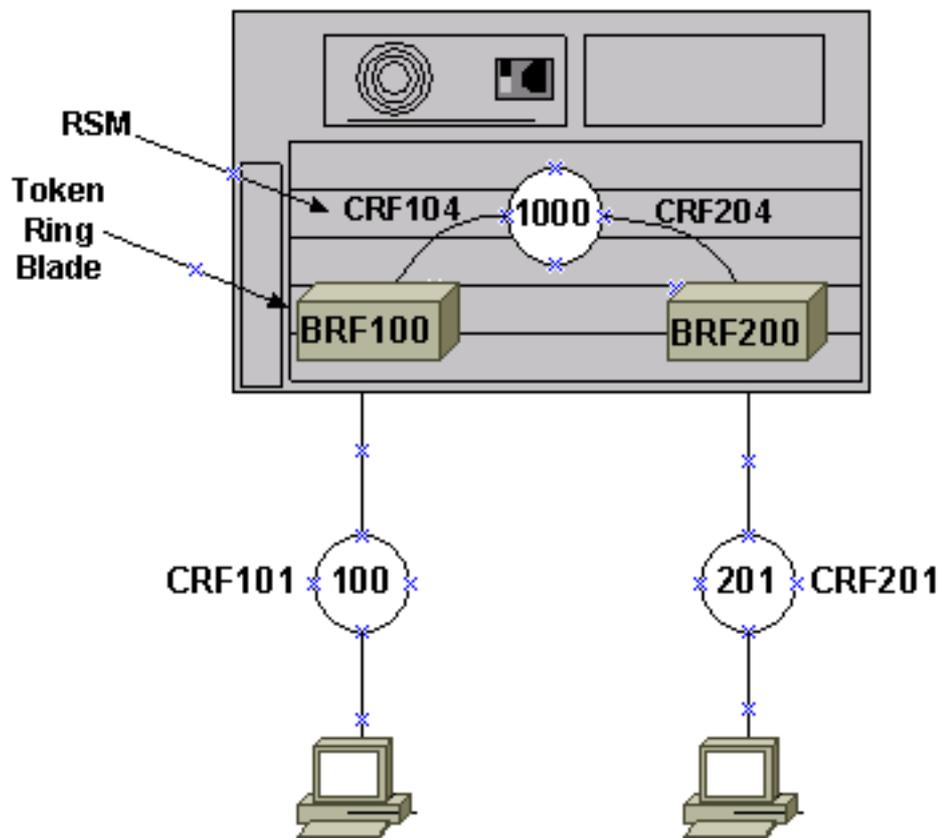
たとえば、TrCRF 101に接続された外部ルータのトークンリングインターフェイスは次のように設定されます。

```
source-bridge ring-group 2000
!
interface token-ring 0
 ip address 1.1.1.10 255.255.255.0
 multiring all
 source-bridge 100 1 2000
!--- The ring number is 100, to match CRF 101 ring number; !--- and 2000 is the virtual ring
number of the router. source-bridge spanning
```

SRBおよびIP用マルチリング用のRSMでのトークンリングの設定

ソースルートブリッジドネットワークでIPをルーティングする場合は、設定にマルチリングを追加し、ソースルートブリッジングを設定する必要があります。これは、RSMでは、スイッチからRSMにブリッジを拡張しているため、マルチリングコードがRIFに付加する疑似リングを作成する必要があります。この疑似リングは、マルチリングコードの下でRSMに割り当てられている親TrBRFの下にTrCRFを作成するときに作成します。

RSMのソースルートブリッジングも設定する必要があるため、インターフェイスVLANをRSMの仮想リングに結び付ける必要があります。これは、RSMの仮想リングと一致するリング番号を持つTrBRFごとにTrCRFを作成する場合に行われます。実際には、同じリング番号を持つマルチリングとソースルートブリッジングの両方に同じTrCRFを使用できます。次の図を参照してください。



この例では、global source-bridge ring-group 1000コマンドを使用して、RSMを仮想リング1000として設定します。

1. 次のコマンドを使用して、スイッチ上で対応する疑似TrCRFを設定し、各TrBRFに1つずつ設定します。

```
set vlan 104 type trcrf name test_crf104 decring 1000 parent 100 mode srb
set vlan 204 type trcrf name test_crf204 decring 1000 parent 200 mode srb
```

注：上記のTrCRFのリング番号は、RSM 1000の仮想リングと一致する必要があります。また、疑似TrCRFにはポートが割り当てられていません。物理ポートは、このドキュメントのメインの「設定」セクションのステップ3の例に示すように、TrCRF 101および201に割り当てられています。

2. スイッチで設定されたTrBRFごとに、RSMにinterface vlanコマンドを追加します。

```
interface vlan100 type trbrf
interface vlan200 type trbrf
```

3. VLANインターフェイスにマルチリングおよびソースルートブリッジング(SRB)コマンドを追加します。これらは、ルータの仮想リングにマッピングするために割り当てられたTrCRF VLANをルータに伝えます。このドキュメントの例では、ルータのリンググループに一致するリング番号が1000のVLAN 104および204です。IPトラフィックをルーティングするには、次の設定になるようにIPアドレスを追加する必要があります。

```
source-bridge ring-group 1000
!
interface vlan100 type trbrf
ip address 1.1.1.1 255.255.255.0
multiring trcrf-vlan 104 ring 1000
multiring all
```

```

source-bridge trcrf-vlan 104 ring-group 1000
source-bridge spanning
!
interface Vlan200 type trbrf
ip address 1.1.2.1 255.255.255.0
multiring trcrf-vlan 204 ring 1000
multiring all
source-bridge trcrf-vlan 204 ring-group 1000
source-bridge spanning
!

```

注：簡単にするため、この例ではIPプロトコルの設定を示していません。

同じスイッチ上のイーサネットとトークンリングVLAN 間の通信

トークンリングVLANとイーサネットVLANは同じスイッチに設定できますが、トラフィックを送信できるのはRSMまたは外部ルータを使用した場合だけです。

このドキュメントで前述したように、スイッチとRSMがすでに設定されている場合は、イーサネットVLANを追加し、2つのメディア間でトラフィックをブリッジするためにRSMでソースブリッジトランスレーショナルを設定できます。

1. イーサネットVLANを設定し、`set vlan`コマンドでポートを割り当てます。

```
ptera-sup (enable) set vlan 500 3/1-5
```

```

Vlan 500 configuration successful
VLAN 500 modified.
VLAN 1 modified.
VLAN Mod/Ports
-----
500 3/1-5

```

2. RSMのVLANインターフェイスを設定し、トランスペアレントブリッジグループに配置します。

```

interface vlan 500
bridge-group 1

bridge 1 protocol ieee

```

3. `source-bridge transparent ring-group pseudo-ring bridge-number tb-group`コマンドを使用して、ソースブリッジのトランスレーショナルを設定します。`ring-group`は、RSMに設定されているソースブリッジリンググループ仮想リングです。この例の場合は、1000です。`pseudo-ring`は、このトランスペアレントブリッジングドメインに割り当てられるリング番号です。任意の番号を選択できますが、実際のリング番号はソースルートブリッジドネットワーク内で一意である必要があるのと同じ方法で一意である必要があります。前の例では、リング番号は3000です。`bridge-number`は、トランスペアレントブリッジグループから送信され、ソースルートブリッジドネットワークに送信されるフレームでRIFを形成するために使用されるブリッジ番号です。この場合、1を使用しています。`tb-group`は、トランスペアレントブリッジグループ番号です。この例の場合は、1です。

```

source-bridge transparent 1000 3000 1 1
source-bridge ring-group 1000
!
interface vlan100 type trbrf
ip address 1.1.1.1 255.255.255.0
multiring trcrf-vlan 104 ring 1000

```

```

multiring all
source-bridge trcrf-vlan 104 ring-group 1000
source-bridge spanning
!
interface Vlan200 type trbrf
ip address 1.1.2.1 255.255.255.0
multiring trcrf-vlan 204 ring 1000
multiring all
source-bridge trcrf-vlan 204 ring-group 1000
source-bridge spanning
!
interface vlan 500
ip address 1.1.3.1 255.255.255.0
bridge-group 1

bridge 1 protocol ieee

```

注：このシナリオでは、IPはブリッジではなくルーティングされています。

確認

ここでは、設定が正常に機能しているかどうかを確認します。

[アウトプット インタープリタ ツール \(登録ユーザ専用 \) \(OIT \) は、特定の show コマンドをサポートします。](#) OIT を使用して、show コマンドの出力の分析を表示します。

show vlan : スイッチで、設定されているVLAN、ブリッジモード、スパニングツリーを確認できます。

```
ptera-sup (enable) show vlan
```

VLAN	Name	Status	IfIndex	Mod/Ports	VLANs
1	default	active	3	3/6-24 6/1-24 10/1-12	
100	test_brf	active	8	8 105	101, 102, 103, 104
101	test_crf101	active	10	8/1-4	
102	test_crf102	active	11		
103	test_crf103	active	12		
104	test_crf104	active	13		
105	test_crf105	active	14		
200	test_brf2	active	9	9 205	201, 202, 203, 204
201	test_crf201	active	15	8/5-8	
202	test_crf202	active	16		
203	test_crf203	active	17		
204	test_crf204	active	18		
205	test_crf205	active	19		
210	VLAN0210	active	98		
500	VLAN0500	active	20	3/1-5	
1002	fddi-default	active	4		
1003	trcrf-default	active	7	8/9-16	
1004	fddinet-default	active	5		
1005	trbrf-default	active	6	6	1003

```
VLAN Type SAID MTU Parent RingNo BrdgNo Stp BrdgMode Trans1 Trans2
```

```

-----
1      enet  100001  1500 - - - - - 0 0
100    trbrf 100100  4472 - - 0xf  ibm - 0 0
101    trcrf 100101  4472 100 0x64 - - srb 0 0
102    trcrf 100102  4472 100 0x65 - - srb 0 0
103    trcrf 100103  4472 100 0x66 - - srb 0 0
104    trcrf 100104  4472 100 0x3e8 - - srb 0 0
105    trcrf 100105  4472 100 0x7d0 - - srb 0 0
200    trbrf 100200  4472 - - 0xf  ibm - 0 0
201    trcrf 100201  4472 200 0xc9 - - srb 0 0
202    trcrf 100202  4472 200 0xca - - srb 0
0
203    trcrf 100203  4472 200 0xcb - - srb 0 0
204    trcrf 100204  4472 200 0x3e8 - - srb 0 0
205    trcrf 100205  4472 200 0x7d0 - - srb 0 0
210    enet  100210  1500 - - - - - 0 0
500    enet  100500  1500 - - - - - 0 0
1002    fddi  101002  1500 - - - - - 0 0
1003    trcrf 101003  4472 1005 0xcc - - srb 0 0
1004    fdnet 101004  1500 - - 0x0  ieee - 0 0
1005    trbrf 101005  4472 - - 0xf  ibm - 0 0

```

VLAN DynCreated

```

-----
1      static
100    static
101    static
102    static
103    static
104    static
105    static
200    static
201    static
202    static
203    static
204    static
205    static
210    static
500    static
1002    static
1003    static
1004    static
1005    static

```

VLAN AREHops STEHops Backup CRF 1q VLAN

```

-----
101    7      7      off
102    7      7      off
103    7      7      off
104    7      7      off
105    7      7      off
201    7      7      off
202    7      7      off
203    7      7      off
204    7      7      off
205    7      7      off
1003  7      7      off

```

ptera-sup (enable)

show spantree TrBRF vlan_number : 接続されているポートや転送されているポートなどの重要な情報を表示し、TrBRFレベルで実行されているスパンニングツリーモードを表示します。

ptera-sup (enable) **show spantree 100**

```
VLAN 100
Spanning tree enabled
Spanning tree type          ibm
Designated Root              00-10-1f-29-f9-63
Designated Root Priority      32768
Designated Root Cost         0
Designated Root Port         1/0
Root Max Age 10 sec  Hello Time 2 sec  Forward Delay 4 sec
```

```
Bridge ID MAC ADDR          00-10-1f-29-f9-63
Bridge ID Priority          32768
Bridge Max Age 10 sec  Hello Time 2 sec  Forward Delay 4 sec
```

Port,Vlan	Vlan	Port-State	Cost	Priority	Portfast	Channel_id
5/1	100	forwarding	5	4	disabled	0
101	100	inactive	62	4	disabled	
102	100	inactive	62	4	disabled	
103	100	inactive	62	4	disabled	
104	100	inactive	62	4	disabled	
105	100	inactive	62	4	disabled	

* = portstate set by user configuration.

注：この出力では、ポート5/1がTrBRF VLAN 100の下にリストされています。これは、RSMがスロット5にあり、ISLトランクを使用してスイッチからRSMにブリッジが自動的に拡張されるためです。トークンリングISLの詳細については、『[Cisco Catalyst 5000と3900スイッチおよびルータ間のTR-ISLトランキング](#)』を参照してください。

show spantree TrCRF vlan_number：接続されているポートや転送されているポートなどの重要な情報を表示し、TrCRFレベルで実行されているスパンニングツリーモードを表示します。

```
ptera-sup (enable) show spantree 101
```

```
VLAN 101
Spanning tree enabled
Spanning tree type          ieee
Designated Root              00-10-1f-29-f9-64
Designated Root Priority      32768
Designated Root Cost         0
Designated Root Port         1/0
Root Max Age 10 sec  Hello Time 2 sec  Forward Delay 4 sec
```

```
Bridge ID MAC ADDR          00-10-1f-29-f9-64
Bridge ID Priority          32768
Bridge Max Age 10 sec  Hello Time 2 sec  Forward Delay 4 sec
```

Port	Vlan	Port-State	Cost	Priority	Portfast	Channel_id
5/1	101	forwarding*	5	32	disabled	0
8/1	101	not-connected	250	32	disabled	0
8/2	101	not-connected	250	32	disabled	0
8/3	101	not-connected	250	32	disabled	0
8/4	101	not-connected	250	32	disabled	0

* = portstate set by user configuration or set by vlan 100 spanning tree.

```
ptera-sup (enable)
```

show port:ISLトランクの存在を確認します。

```
ptera-sup (enable) show port 5/1
```

Port	Name	Status	Vlan	Level	Duplex	Speed	Type
5/1		connected	trunk	normal	half	400	Route Switch

Port	Trap	IfIndex
5/1	disabled	81

Last-Time-Cleared

Sat Jun 29 2002, 03:15:59

ptera-sup (enable)

show trunk : どのポートが転送されていて、どのポートが非アクティブであるかを表示し、TrBRFレベルでスパンニングツリーモードを表示します。

ptera-sup (enable) **show trunk**

Port	Mode	Encapsulation	Status	Native vlan
5/1	on	isl	trunking	1
7/1-2	on	lane	trunking	1

Port Vlans allowed on trunk

5/1	1-1005
7/1-2	1-1005

Port Vlans allowed and active in management domain

5/1	
7/1-2	1003

Port Vlans in spanning tree forwarding state and not pruned

5/1	100-105,200-205
7/1-2	1003

ptera-sup (enable)

show interface:RSMのVLAN設定を、ルータの物理インターフェイスと同じ方法で表示します。

ptera-rsm# **show interface**

Vlan100 is up, line protocol is up

Hardware is Cat5k Virtual Token Ring, address is 0009.fa18.3800 (bia0009.fa18.3800)

Internet address is 1.1.1.1/24

MTU 4464 bytes, BW 16000 Kbit, DLY 630 usec,

reliability 255/255, txload 1/255, rxload 1/255

Encapsulation SNAP, loopback not set

ARP type: SNAP, ARP Timeout 04:00:00

Ring speed: 16 Mbps

Duplex: half

Mode: Classic token ring station

Source bridging enabled, srn 0 bn 15 trn 1000 (ring group)

spanning explorer enabled

Group Address: 0x00000000, Functional Address: 0x08000100

Ethernet Transit OUI: 0x000000

Last input 00:00:01, output 00:00:55, output hang never

Last clearing of "show interface" counters never

Input queue: 0/75/0/0 (size/max/drops/flushes); Total output drops: 0

Queueing strategy: fifo

Output queue :0/40 (size/max)

```
5 minute input rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
5 minute output rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
 390 packets input, 21840 bytes, 0 no buffer
Received 0 broadcasts, 0 runts, 0 giants, 0 throttles
0 input errors, 0 CRC, 0 frame, 0 overrun, 0 ignored, 0 abort
25 packets output, 6159 bytes, 0 underruns
0 output errors, 1 interface resets
0 output buffer failures, 0 output buffers swapped out
3 transitions
```

Vlan200 is up, line protocol is up

```
Hardware is Cat5k Virtual Token Ring, address is 0009.fa18.3800 (bia0009.fa18.3800)
Internet address is 1.1.2.1/24
MTU 4464 bytes, BW 16000 Kbit, DLY 630 usec,
  reliability 255/255, txload 1/255, rxload 1/255
Encapsulation SNAP, loopback not set
ARP type: SNAP, ARP Timeout 04:00:00
Ring speed: 16 Mbps
Duplex: half
Mode: Classic token ring station
Source bridging enabled, srn 0 bn 15 trn 1000 (ring group)
  spanning explorer enabled
Group Address: 0x00000000, Functional Address: 0x08000100
Ethernet Transit OUI: 0x0000000
Last input 00:00:00, output 00:08:43, output hang never
Last clearing of "show interface" counters never
Input queue: 0/75/0/0 (size/max/drops/flushes); Total output drops: 0
Queueing strategy: fifo
Output queue :0/40 (size/max)
5 minute input rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
5 minute output rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
 381 packets input, 21336 bytes, 0 no buffer
Received 0 broadcasts, 0 runts, 0 giants, 0 throttles
0 input errors, 0 CRC, 0 frame, 0 overrun, 0 ignored, 0 abort
9 packets output, 783 bytes, 0 underruns
0 output errors, 1 interface resets
0 output buffer failures, 0 output buffers swapped out
3 transitions
```

ptera-rsm#

show spanning-tree:RSMで実行されているスパニングツリープロトコル(STP)に関する情報を表示します。

ptera-rsm# **show spanning-tree**

Bridge group 1 is executing the IEEE compatible Spanning Tree protocol

```
Bridge Identifier has priority 32768, address 0090.5f18.1c00
Configured hello time 2, max age 20, forward delay 15
We are the root of the spanning tree
Port Number size is 12
Topology change flag not set, detected flag not set
Times: hold 1, topology change 35, notification 2
  hello 2, max age 20, forward delay 15
Timers: hello 0, topology change 0, notification 0
bridge aging time 300
```

Port 12 (Vlan500) of Bridge group 1 is down

```
Port path cost 19, Port priority 128
Designated root has priority 32768, address 0090.5f18.1c00
Designated bridge has priority 32768, address 0090.5f18.1c00
Designated port is 12, path cost 0
Timers: message age 0, forward delay 0, hold 0
BPDU: sent 0, received 0
```

Port 13 (RingGroup1000) of Bridge group 1 is forwarding

Port path cost 10, Port priority 128
Designated root has priority 32768, address 0090.5f18.1c00
Designated bridge has priority 32768, address 0090.5f18.1c00
Designated port is 13, path cost 0
Timers: message age 0, forward delay 0, hold 0
BPDU: sent 0, received 0

ptera-rsm#

[トラブルシューティング](#)

現在、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

[関連情報](#)

- [トークンリングルートスイッチモジュール](#)
- [Cisco Catalyst 5000 および3900 スイッチとルータ間のTR-ISLトランキング](#)
- [トークンリングサポートページ](#)
- [IBMテクノロジーのサポート](#)
- [製品サポート](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)